

「私たちの素晴らしい仲保者」

ローマ8：34

堀田修一 23・12・3

「だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていてくださるのです」：34。

I このみことばには、私たちの主が仲保者（神と人の仲介者。神であるのにクリスマスに人となられた主のみが、その資格がある方）として行ってくださった御業の完璧な要約、驚愕すべき内容があります。パウロは主のあらゆる御業、ご経験の一つ一つを、「私たちのために」それらが行われたという恵みを強調したいと願っています。主こそ神と人の交わりを回復し可能とする仲保者です！主の御業は、ひとえに神と私たちの関係のためであり、主がクリスマスに地上に来られて、私たちの救いのために十字架で死に復活するためでした。主の御生涯とご経験は、最初から最後まで、私たちの「仲保者（神と人の交わりを回復させる）」、私たちの「代表者（義の回復の代表者）」として行動しておられます。

II 「誰が、私たちを罪ありとするのですか」。私たちのために、地上で救いのみわざを行わせようと御子をこの世にお遣わしになった（クリスマス）神が私たちを罰することなどあり得ません。また、私たちの救いのためにクリスマスに人となり、私たちの罪のために十字架で死なれた主キリストご自身が私たちを罪に定めることはあり得ません。「神は、実に、そのひとり子をお与えになった（クリスマス、十字架に）ほどに世（私たち）を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのち（神との永遠の交わり）を持つためである。神が御子を世に遣わされた（クリスマス、十字架、復活）のは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者はさばかれない」ヨハネ3：16-18

III 「死んでくださった方…イエス・キリスト」。

1. 「死んでくださった方」。悪魔の責め、訴えに答える道、自分が罪に定められることがない事実を明確にするみことばの理解＝「キリストこそ、私たちの過去・現在・未来の全ての罪のために死んでくださった方です」。本来私たちのもろもろの罪に対する当然の断罪を、私たちの主が十字架で私たちの身代わりに死ぬことにより受け尽くしてくださったのです！主には全く罪がありませんでした。主は、私たちのための死の直前に言われました。「この世を支配する者（悪魔）が来る…彼はわたしに対して何もすることはできません」ヨハネ14：30。悪魔は何もできない。悪魔は主の罪を何一つ見つけ出せないのです。クリスマスに生まれたキリストの生涯には一点の汚れ、過ち、罪もなく、私たち人間の代表者として神の律法に対して完璧な従順を全うされました。それゆえに、本来は、罪の刑罰として十字架で死なれる必要はなかったのです。しかし、主が十字架で死なれる目的がありました。それは、私たちの過去、現在、未来の全ての罪を背負い、身代わりに死に、罪の刑罰を受け、私たちが救われる道を設けるため

す。私たちの罪深さに対して神の律法が宣告している断罪があり、それを主は十字架で私たちの身代わりに受けられ、罪の刑罰と贖い、償いが完全に「完了した」のです。その事実を根拠に神は主を信じる私たちを義（罪の赦しと神の前に正しい者）と認めてくださるのです。義認とは、主を信じる私たちがもはや罪に定められないという宣言です！これは、神の正義が完全に満足させられていることを意味します。

2. 「もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにありません。もし、私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての不義からきよめてくださいます」 Iヨハネ1：8，9。このみことばで鍵を握る二つの言葉は、「真実で」と「正しい」です。「真実で」とは、神がご自分の働き方と、ご自分の様々な言明と、ご自分の様々な約束とに対して真実なお方という意味です。「正しい方」とは、神は常に正しいの意味。神は常に正しいので、信仰者である私たちが罪に陥っても、自分の罪を正直に告白する（原語：認める、率直に言い表す）なら、神は、ご自分の真実さと正しさを根拠に私たちが赦してくださる。神はご自分の御子において、私たちの全ての罪を罰せられた。御子は私たちの断罪と罪を身に負い、私たちが当然受ける刑罰を完全に受け取ってくださった。主が十字架で私たちの罪の処罰を完全に受けられたことで、罪は罪として正しくさばく神の正義は完全に全うされた。それ故、主を信じ主の義をいただいている私たちは恐れる必要はない。神の真実さと正しさ（主が十字架で獲得された義）によって、私たちの赦しは揺るぎないのです。これは、救いの確信、最終的堅忍（主を信じる者への神の救いは最初から最後まで永遠に全うされる）の教理の鍵です。私たちの罪が完全に赦されるのは、私たちの行いによらず、キリストのクリスマス（神が人となられた）、十字架の死、復活を通して神が私たちのために行ってくださいました御業のおかげです。

IV 「いや、よみがえられた方であるキリスト・イエス」。

1. このみことばは、聖書全体の中で最も驚くばかりに圧縮された真理です。この真理は、Iコリント15章で説き明かされている。要点は、「いや、むしろ、よみがえられた方」と言えないとしたら、その人は「今なお、自分の罪の中に」おり、その信仰はむなしく、今なお、さばきの下にあるのだと。主の復活の事実は、私たちの救いの確信にとって欠かせません。主の復活は、私たちが主の死によって義と認められている証拠、保証です。「主イエスは、私たちの背きの罪ゆえに死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられました」ローマ4：25。主の十字架は、私たちの罪の贖い、償いのいけにえとして完全ですが、神がその罪のいけにえを十分満足して受け入れられている証拠、保証が主の復活です。

2. 聖書が語る私たちの敵が五つあります。罪、悪魔、律法、死、地獄（永遠の裁き、滅び）です。

罪と律法とは、主の罪のない生涯と十字架の死によって処置されました。悪魔と死と地獄（永遠の裁きと滅び）についてはどうだろうか。ヘブル2：14，15にその答えがある。「そこで、子たち（私たち人間）はみな血と肉を持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました（クリスマスに神が人となられた）。これは、その死（全人類の罪のための身代わりの死）によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた人々を解放してくださるためでした」。死の恐怖は人類全体を縛っている。

主の復活は、死、地獄も征服された事実を高らかに宣言しています。死は「罪から来る報酬」。「死のとげは罪であり、罪の力は律法」(Ⅰコリント15:56)。死のとげには、罪責感が含まれ、死の先で待ち受けている最後の審判、永遠の滅び、苦しみへの恐れが含まれています。しかし、復活の主は、死に勝利し、地獄を制圧された。主が地獄の苦しみを私たちの代わりに受けてくださったゆえに！「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか」Ⅰコリント15:55。悪魔は、主の十字架と復活により大打撃を受けた。しかし、聖書は語る。悪魔は最後のあがきとして私たちを悪に誘惑する。みことばと祈りを武具として悪魔より何倍も強い全能の神に目を覚まして祈り続けましょう。私たちの主は、私たちの回復の「代表者」、神との交わりの「仲保者」として、クリスマスに生まれ、生涯、一つの罪も犯さず、私たちの罪のために、あらゆる苦しみを忍び、十字架で死に、死に勝利し復活されました。そのすべては、私たちの救いのために！アドベントを思い、神が御子をクリスマスに世に送り、主が私たちの罪のために死に復活されたことを感謝します！